

平成27年度実施

草津市市民まちづくり提案事業

協働事業 事例集

市民 × 行政 の協働事業！！



協働事業事例集 目次

1. **つくって学ぶ 食品表示とエコなお菓子づくり**
NPO法人 消費者ネット・しが × まちづくり協働部生活安心課
2. **ごみの山を、宝の山に！**
市民生ごみリサイクルプロジェクト × 環境経済部ごみ減量推進課
3. **認知症カフェ なごみ**
(公社) 認知症の人と家族の会 滋賀県支部 × 健康福祉部長寿いきがい課
4. **CAPで考えよう 子どもの涙を見る前に・・・**
CAPひまわり座 × 子ども家庭部子ども家庭課
5. **子育てを楽しもう！大人が遊ぶ研修会**
NPO法人 子育て研究会 × 子ども家庭部子ども子育て推進室
6. **住まいの耐震化促進啓発事業**
NPO法人 市内業者会 × 都市計画部建築課



つくって学ぶ 食品表示と エコなお菓子づくり

予算額300千円



NPO法人
消費者ネット・しが



まちづくり協働部
生活安心課

事業の背景

平成25年に食品表示を規定する食品衛生法、健康増進法、JAS法の3法律を一元化した「食品表示法」が公布されたことを背景に、消費者が自ら、普段の生活で身近に接する機会が多い「食品表示」に関する知識を取得し、食品の安全性を識別できる判断力を養うことが求められてきています。

市では、これまでも、食に対して高い意識を持った消費者を広げていくための啓発を行っていましたが、「食品表示法」の公布をきっかけに、市民公益活動団体と協働し、消費者一人ひとりの「食の安全」に対する意識と知識を更に高めるため、学習の場を広く提供し、より一層の推進体制の充実を図ることとしました。

事業内容

親子を対象とした学びの場や、生産者・販売者の話を直接聞き、体験を通して「食の安全」について学ぶ機会として、エコなお菓子づくり教室とフィールドワークを開催しました。

エコなお菓子づくり教室では、親子で楽しみながら、「食」について考える場となりました。

フィールドワークでは、池田牧場とJAグリーン近江で、それぞれの事業者の「食の安全」に対する取り組みについてお話を伺いました。池田牧場の牛乳を使ったバター・アイスクリーム作りを体験し、JAグリーン近江では、バックヤードの見学や、表示ラベルについての話を聞き、食品表示を見て食材を選ぶことの大切さを学び、今後の食材選びの際の参考となりました。



役割分担

NPO

- 事業計画の策定
- 講師依頼
- 広報チラシの作成
- 当日進行

行政

- 施設等の借用
- 広報活動
(チラシ配布、市HP等)
- 当日進行サポート

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

新しい制度を市民に啓発し、浸透を図る取り組みを協働で行うことで効果が出たと思います。市民活動の持つ専門性が活かされた企画と行政の強みを活かした広報がうまくかみ合っていました。

◎担当者からひとこと



(特活)消費者ネット・しが
土井 裕明さん

フィールドワークや親子向け講座など、体験型学習に取り組むことは初めてでした。生活安心課のみなさまと協働できたことで取り組めたことだと思います。消費者ネット・しがとしても事業の幅が広がりました。食の安全に関する学習はこれからも取り組んでいきたいと思っています。

市単独では実施が難しかった親子向けの講座やフィールドワークを開催することができたことは、NPOとの協働事業の成果だと思います。協働事業を通し、「楽しみながら学ぶ」機会を提供することができたので、今後の市の事業に活かしていければと考えています。



生活安心課
岡田 麻衣

ごみの山を、宝の山に！

予算額300千円



市民・生ごみ
リサイクルプロジェクト



環境経済部
ごみ減量推進課

事業の背景



家庭から排出される焼却ごみのうち、生ごみを減量するためにはコンポストを活用し、堆肥化することが有効であり、市においても生ごみ処理容器購入者には補助を行う等、普及啓発を行ってきました。

これに加えて手軽に取り組める段ボールコンポストによる生ごみの堆肥化の取り組みを家庭に普及させ、更なる焼却ごみの減量とリサイクルの推進につなげるため、市民公益活動団体と協働で事業を実施しました。

事業内容

市内各市民センターで段ボールコンポストについての講座を開催しました。県内の各市町で啓発を行っており、豊富な実績のある近江八幡市の市民・生ごみリサイクルプロジェクトが講師を務める講座では、現代の日本のごみ問題や環境の話も交えながら、手軽さや環境へのやさしさについて説明し、希望者には講座の終了後、段ボールコンポストを始めるために必要なものを一式安価で購入いただきました。受講者からは、「こんなにためになる講座ならもっとあちこちでやって欲しい」、「良い講座で大変勉強になった」という嬉しい声も聞かれました。



役割分担

NPO

- 事業の詳細決定
- 事業の運営
- チラシ・資料の作成
- 報告書の作成 など

行政

- 開催場所の調整
- 市民への講座案内（広報・HP等）
- 講座のサポート

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

生ごみ減量化の広報だけでは、なかなか進まない中、実際に段ボールコンポストに取り組んでいる団体のノウハウがうまく活かされていたと思われます。これを機に、市内での実践が進むことを期待しています。

◎担当者からひとこと



市民・生ごみ
リサイクルプロジェクト
吉田 栄治さん

ごみの山を宝の山に！…を合言葉に、微力ながら「生ごみリサイクル」の普及啓発、実践に取り組んで参りました。一般的な家庭であれば、段ボール箱の利用（段ボールコンポスト）で十分に生ごみを堆肥化することができます。その堆肥で良い土づくりができ、野菜や花植えなどとても楽しく、健康にも良い事と思います。是非皆さんにも生ごみリサイクルの実践にチャレンジ頂ければ幸いです。

「捨てればごみ、分ければ資源」という言葉があります。今回の講座を受講いただいたみなさまは、これまで処理に困っていた「生ごみ」が堆肥になる「資源」へと見方が変わったのではないのでしょうか。これからも、楽しみながらごみの減量ができる段ボールコンポストを多くの市民のみなさまに活用いただきたいと思います。



ごみ減量推進課
石松 恒人

認知症カフェなごみ

予算額407千円



公益社団法人

認知症の人と家族の会 滋賀県支部



健康福祉部

長寿いきがい課

事業の背景

本市では、認知症について正しく理解し、地域の認知症の人や家族を支援する人材を養成するため、認知症サポーター養成講座を実施しています。しかしながら、講座受講後の認知症サポーターの活動を把握できておらず、次のステップを示せていない状況にありました。

このことから、地域に潜在している意識の高い認知症サポーターを掘り起こし、活用することにより、認知症に対する意識の向上と理解を深める事業の募集を行いました。



事業内容

5月のオープニングセレモニーに始まり、6月から毎月1回「認知症カフェなごみ」を開催しました。午前の部は認知症サポーターに対する各種講座で、医師や介護経験者、先進地の職員など様々な関係者を講師に招き認知症への理解や地域での活動について学んでいただきました。

午後の部は認知症のご本人やご家族が安心して過ごせる居場所、介護者が相談できる場所として臨床美術や音楽療法、各自が好きなことをして過ごせる場づくりを行いました。

1年間を通して参加のあった認知症サポーターからは、今後も自分の地域や「認知症カフェなごみ」の場を通して活動したいという意向が聞かれました。

役割分担

* N P O *

- 講師の調整
- 啓発物の作成
- カフェの準備
- カフェの運営
- 周知活動

* 行 政 *

- 開催場所の調整
- サポーターの掘り起こし
- サポーターへの参加勧奨
- 周知活動

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

認知症に関わる方がいろんな形で参加できる仕組みができたと思います。カフェはこれからも継続実施されるようなので、協働の良さを活かした取り組みになればと思います。

◎担当者からひとこと



認知症カフェ実行委員会の皆さん

認知症サポーターとともに学び、地域での認知症の人や家族を支援できる活動を広げたいと取り組みました。事業の計画と運営にあたりキャラバン・メイトで実行委員を組織しチームワークよく、それぞれの役割が果たせたと思います。今後も楽しい居場所づくりと皆さんの活動のよりどころにしていきたいです。

毎回様々な企画や講師を調整していただき、サポーター、ご本人やご家族ともに認知症を理解し楽しめる場となっていました。今回の事業を通して、地域の中に意欲のあるボランティアの方が多くいることを知り嬉しく思っています。今後もご本人やご家族が安心して過ごせる居場所として継続できればと思います。



長寿いきがい課
原田秋澄

CAPで考えよう。 子どもの涙を見る前に

予算額 312千円



CAPひまわり座



子ども家庭部 子ども家庭課

事業の背景

児童虐待は、子どもの人権を著しく侵害するもので、こころとからだに大きな傷を残し、子どもの将来に悪影響を及ぼしかねません。市では、子ども自身がいじめや暴力への対処を学ぶ人権教育学習「CAPプログラム」を未然防止対策の一つとして位置づけ、かねてより、普及・啓発に取り組んできました。このCAPプログラムを地域で子どもに関わるすべての大人の方々に学んでいただくため、その具体的な手法をNPOに広く募集しました。



事業内容

子育てサークル、学区民生委員児童委員協議会やひとり親家庭福祉推進員の方々など地域で子どもにかかわる活動をされている様々な団体の皆さんがワークショップに参加されました。

ワークショップでは、参加者自ら「話を聴く、話す」という体験を通して、子ども一人ひとりの目線にあわせて丁寧に思いを聴き、共感することの大切さを学びました。また、子どもの権利「安心」「自信」「自由」を守るために、周りにいる大人たちは何ができるかを具体的に考えていきました。

参加者からは、「これをきっかけに、大人が子どもを孤立させないように、子どもが安心して素直に話せる環境づくりに取り組みたい」との意見がありました。

役割分担

* N P O *

- 応募団体と打ち合わせ
- 講座開催
- 事業のまとめ

* 行 政 *

- 広報
- 参加団体受付
- 開催日調整

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

CAPプログラムを広げたい行政と、CAPワークショップを専門とする市民活動団体との思惑が一致した協働事業だと思います。ワークショップの結果が次につながるような展開を期待しています。

◎担当者からひとこと

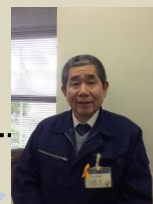


CAP ひまわり座
北村 妙子

【写真提供】
NPO 法人
CAP センター・JAPAN

暴力を肯定する人と、暴力に苦しめられている人が同じ地域社会で生活をしています。周囲の無理解や関心のなさを何とかできないかと思います。このワークショップをきっかけに、子どもに向き合う姿勢を考え直したい、よその家のことだからと見て見ぬふりをしないようにしようと思ったなどの感想をいただいています。何かが起きてからではなく、「予防」が何より大事です。

CAPワークショップは、団体の依頼を受けて開催するので、個人で受講するのが困難です。市と協働することで、広く多くの人が参加できます。一人だけが暴力について考えているよりも、地域のより多くの人とこの問題を考えていくことが防止力を高めます。テーマは難しそうですが、寸劇があったり、子どものころの自分を思い出してみたり、「参加してよかった!」と思える講座です。何より講師の話に引き込まれます。



子ども家庭課
竹原 諭

子育てを楽しもう！ 大人が遊ぶ研修会

予算額200千円



NPO法人
子育て研究会



子ども家庭部
子ども子育て推進室

事業の背景

急激な少子高齢化の中、本市では、子育て世代の流入が多い反面、コミュニティの希薄化が進み、子育ての経験が浅い保護者は子育て、育児に悩みを抱えておられます。地域や市において子育て支援活動を行っているものの、子育て支援者の固定化が進み、新たな支援者の育成が急務となりました。そのことから、子育てサークル等を開設する支援者の育成および市の事業を支援いただける子育てサポーター

の育成を図る事業が必要であると考え、NPOと協働で事業に取り組みました。



事業内容

子育てにおいて大切なことは、保護者をはじめ子どもを取り巻く大人が楽しみながら様々な体験や経験をし、それらを積み重ねながらともに成長していくことです。

そのために、大人が楽しめる遊びやものづくりプログラムの実施を中心に行い、子育て支援者やサポーター自身が「楽しみながらの子育て」を実践できるよう、受託団体と連携しながら開催しました。

サポーター向け研修会「はじめのいっぽ研修会」は、子育て支援現場の現状を学び、子育て支援に関わる方々・これから関わろうとしている方々の想いや考えを整理し、より膨らませる機会として開催しました。

支援者向け研修会「ひろがり研修会」は、専門家との、ものづくり・自然の中での活動・音楽活動を通して、今後の支援活動のヒント・引き出しを増やす場として開催しました。

役割分担

* N P O *

- 講師選定
- 当日会場設定・受付
- アンケート集計
- 報告・レポート作成

* 行 政 *

- 会場借用手続き
- 広報
- 参加受付
- 修了証発行

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

これからの子育てを考える上で、必要な事業だと思います。行政では気がつかないような視点での市民活動のよさが出た取り組みだったと思います。

◎担当者からひとこと



NPO 法人子育て研究会
北山 早智子さん

子育て支援者としてご活躍中・今後ご活躍いただく方々に向けての研修会を実施しました。「楽しみながらの子育て」を目指し、まず子どもたちに向き合う大人たちに、楽しみながら引出しを増やしていただける「本物の体験」を体感いただきました。結果、たくさんの笑顔を拝見できました。この笑顔が子育て中の親子に連鎖していくことを楽しみにしています。

子育て研究会がこれまでの活動の中で培われ、1つ1つを見落とすことなく大切に育ててこられた「ものの見方」「とらえ方」「かかわり方」の結集を提供していただくことができました。「今、生きていること」の喜びを実感させていただける場面が多く、参加者同士がつながるきっかけにもなりました。



子ども子育て推進室
角 多津子

住まいの耐震化促進啓発事業

予算額400千円



NPO法人

草津の安全・福祉・
災害救援活動を推進する市内業者会



都市計画部 建築課

事業の背景

昭和56年以前に建築された建築物は、大きな地震が発生した場合、倒壊する可能性の高い旧基準で設計・建築されたものが多く、本市では、平成7年の阪神・淡路大震災以来、耐震診断・耐震補強の必要性を啓発してきましたが、時間の経過と共に危機意識が薄れてきています。今一度、防災意識を高めていただくとともに、耐震診断や耐震補強をすすめていただくために、NPOとの協働で市民の皆様への啓発活動に取り組むこととしました。



事業内容

市内業者会の会員は、県の耐震診断・耐震改修に関する講習を受けられた方や、建築士、建築施工管理技士等の資格保有者が多く、耐震工事の必要性や、診断から補強工事の流れをわかりやすく説明することができる専門的な知識をお持ちです。この専門性を活かすため、11月に開催されたイベント「パワフル交流市民の日」や、「総合防災訓練」において、相談コーナーやパネルを設け、耐震診断や耐震改修の啓発活動を行いました。



役割分担

NPO

- チラシ、パネル作成
- 周知
- 工法、コスト等の説明

行政

- 開催場所確保
- 周知
- 支援制度の説明

協働コーディネーター阿部圭宏さんからひとこと

耐震化は必要だと思っていても、どういう工法で行うのか、どれくらい費用がかかるかが市民の関心の高い点です。行政はこうした点になかなか答えにくいので、協働で取り組んだ意味があると思います。

◎担当者からひとこと



市内業者会
和田隆之さん

協働で事業を行う事で市民の方々は安心して気軽に相談する事が出来た様に感じました。

市民の方からの相談に対して分かり易く説明いただき、非常に効果がありました。NPOさんの専門性を活かすことが出来ました。



建築課
長谷川憲一

発 行

草津市まちづくり協働課

TEL : (077)-561-2337

FAX : (077)-561-2482



草津市

Kusatsu City